

めだかの学校だより

令和2年11月1日

第110号

学舎：周智郡森町一宮

「一宮総合センター」

事務局：静岡県磐田市

家田 529-20

TEL:0539-62-6691

校長訓話

第一〇回 校長 水島 加寿代

私は幼いころ、地べたに寝っ転がりながら、自分の横でひたすら行進していく蟻んこたちの姿をぼーっつと眺めているのが好きだった。ときどき行く先を指で遮って悪戯して、それでも蟻んこたちは動じることなく淡々と迂回していったっけ！

コロナ禍で引きこもりが続いた際に、晴れた日、曇りの日、雨の日、それぞれに変化する葉っぱの鮮やかな色に癒され、その都度違う香りを感じたとき、ふと蟻んこを眺める幼い自分を思い出していた。陽だまりに包まれるみたいな安心感、気持ちよさ。そんな感覚をいつしか忘れて、ただただガムシヤラに追われ追われの日々が当たり前のようになってしまったのはいつからだろう…

先日、めだかの学校の宿題で「コロナの前後で変化したこと」を考えたとき、私は「テレビを見なくなった」と

書いた。連日の感染者人数報道や心が荒んだニュース映像の連続に辟易してスイッチオフしたらなんと穏やかなこと。これまで最新情報にアンテナを張らねばと必死になっていたけれど、ただただ翻弄されていただけだったのでは？と気付いた。

雑音を避け、静かにぼーっつとする時間を持ったとき、気持ちが穏やかになって今まで聞こえないものが聴こえ、見えないものが観えてくる感覚が気持ちいい。

すると自分に必要な情報はなぜか不思議に巡りめぐって入ってくるような気がする。

ふと立ち寄ったところで探していた物を見つかったり、思い立った人に電話をすると出逢いたかった人と結び付けていただいたり、なかなか浮かばなかったアイデアがひらめいてきたり…。これって第六感の扉がちょっぴり開いたの…かも…ね？！

目の前に大きな指が降りてきて行く手を遮られても 焦らず迂回すればまた違った出逢いや面白さを見つ

けることができそうだ。
ふと思い出した蟻んこたちの記憶は、まさに「虫のしらせ！」だったよ
うだ。



《蟻んこたちを眺めていたころの私：50年前ですかね？》

第109回めだかの学校の宿題4頁
特集号があります。

第109回校長鈴木祐之

めだかの学校伝言板

第110回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／水島加寿代

教頭／竹野昇

用務員／白尾 恂

※今回の給食は取り寄せですが…

給食係／大久保陽・村木謙弐・石野省三・中村やす代
牧野久子・山中幸子・水野忠義・植田美智子
渡辺三ツ子(チーフ)

<学舎>静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」

TEL：0538-89-7730（開校日のみ）

開校日／令和2年12月5日（土）AM 11：20～

受付／大場敬子・大橋町代・服部守孝・榊原幸雄（後見人）

28期通年テーマ：『WITH 新時代 右手に知恵を！

左手に夢を！～前を向いて歩こう～』

今回のテーマ：《新時代、これからの生活はGoToで、そう前を向いて…》

<時間割>

●1時間目 総合 芦川和美 先生

「コロナと校長訓話にみえるGoTo…って？」

●2時間目 国語 富田久美子 先生

「コロナとママと子どもたちと…」

●3時間目 社会 間瀬亮太 先生

「コロナとGoToトラベルのオモテとウラ…って？」

●給食の時間 取り寄せお弁当です。 PM3：00 閉校

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■中津川「苗木城」

行ってきました。中津川市の早川メダカが9月の授業の中で紹介された「苗木城跡」が気になり、とっさに尋ねてみたいと！中津川と言えば、過去何度か訪れていますが、「苗木城跡」の存在は知らなかった。中津川といえば栗、シーズンには栗きんとんをはじめ、数多くのお菓子が並ぶ。数十件の専門店が腕を競っているのが面白い。コロナ禍で他県への移動自粛のため気が沈んでいたさなか、早川メダカからの情報で再び中津川へ足を運びたくなった。

今回は栗が目当てでなく、「苗木城跡」を訪ねたくなった。そこでバラメダカと相談して「行こう」ということになり10月1日(木)晴れ、バラメダカと奥様の3人で浜松をスタート、2時間弱で中津川へ、早速「苗木城跡」を目指す。途中木曾川を渡るが、右上手に巨岩が突然現れ、まさか「苗木城跡」ではないかと車を進める。案内板を頼りに四十八曲り入口へ、バラメダカご夫妻の体力を気にしながら城跡を目指す。

誰にも会わない山道を、熊注意に怯えながら15分、城跡の全貌が目の前に現れた。巨岩に築かれた山城跡がそこにあった。早川メダカの自慢どおり、恵那



山や木曾川をはじめ中津川市街を一望できるのだ。コロナ禍を忘れる美しい景色だ。しばらくは360度の景観を味わった。武器庫、食糧庫、馬牛小屋、井戸までありまるで世界遺産のマチユピチュを連想するかのようだった。(自分だけかな?)戦国時代から明治の初めまで遠山氏がこの地を治めていたという。巨岩を利用しての城郭は様々な工夫がされており一度は訪れたいところだ。来てよかった。バラメダカご夫妻も感動と満足で帰路に就いた。ただ早川メダカにはお会いできなかった。残念!(石野メダカ)

■第32回浜松市いなさ人形劇まつりライブ配信

第32回浜松いなさ人形劇まつりは、11月14日(土)・15日(日)の2日間、浜松市北区引佐町多目的ホールほかを会場に行われる。ただし今回は新型コロナウイルス関係で、会場への入館はできず、YouTubeチャンネルのみライブ配信です。参加劇団は11月14日人形劇団ポポロ、茶問屋シヨゴ、人形劇団ぶんぶく、げきだんはてななどのプロ劇団とアマチュアの井の国劇団ラディッシュ、人形劇団たまたまぼこ。15日にはプロ劇団平常(たいらじょう)、人形劇団ひとみ座、人形劇団員の火、糸あやつり人形劇団みのむしなど6劇団。アマチュア劇団など、全国のプロ、アマ全27劇団が無料配信される。

ライブ配信の視聴方法は、いなさ人形劇まつり <http://www.puppet-inasa.jp/> 又は、実行委員会053・523・1168へ問い合わせを!

いや〜縁とは面白いもので、掛川市の鳥山剛メダカから人形劇まつりのチラシがFAXで、また同じ日に静岡市清水区

花井孝メダカから資料を整理していたら出てきた、と平成10年11月22日付の静岡新聞のコピーが送られてきました。なんと花井孝メダカ、第10回いなさ人形劇まつりの記念シンポジウムのパネルディスカッションのコーディネーターだった。

思えば32年前、私は静岡県人形劇協会の顧問で、第1回いなさ人形劇まつりの立ち上げに富士宮市の人形劇団ふるさとの宇佐美欣也さんと2人で何度も打ち合わせに引佐町に、ついには平成4年3月静岡新聞を早期退職して、静岡市から引佐町に移り住み、いなさ自然休養村つみくさの初代支配人として「人形劇による町づくり」や「地域おこし」とひ回っていたことを思い出しました。今もプロの人形劇団の人たちが関わってくださっていること嬉しい限りですね。ただ、立ち上げに尽力した役場の伊藤茂男メダカ、永田清メダカ、当時静岡新聞事業部長だった平山豊メダカ、人形劇団ふもとの宇佐美欣也さんが天上の人となられているのは淋しい限りです。当時引佐町教育委員会の社会教育課長だった石野省三メダカにもお世話になりました。いや〜若かった。(バラメダカ)

■エーツ、めだかの学校がオンラインでビデオ会議!?

いや〜、めだかの学校がビデオ会議ソフト「Zoom」を使ってオンラインミーティングと言いたいところですが、9月22日ごろだったか、「菅原さんから「支局長オンラインミーティング会議をやるから」と電話があった。「バラさんもよろうヨ」と鈴木正士メダカから電話。興味も有ったので、「正士さんと一緒に…」と了解。パソコンを開くと私にも「かがり火」編集員の松林建さんからメールが届いていた。みると、松本芳廣、溝口久、鈴木正士、榎原幸雄、水島加寿代、鈴木琢真の名

前見える。それに菅原敏一メダカとくれば『エーツ、メダカのオンライン会議!』と思ったりして…。日時は9月29日夜7時から40分間ほど、とのこと。

29日の当日、夜6時半に鈴木正士メダカ宅に行く。すでにパソコンは用意されている。6時50分にまとめ役の松林建さんのメールにつなげる。「少しお待ちください」の画面。本番になるとなかなかうまくつながらず、やっと松林さんの指示のもとOK。『オツ、見えた、見えた』みんなの顔が…。本日のホスト役はフランス在住の服部麻子さん。自己紹介のあと友人と自分の住んでいる地域を自転車にパソコンを乗せて(?)映像をもって案内してくれた、家の中まで。そのあと麻子さんの進行でいろいろ話をする。画面の中には出席している人たちの映像。こういうものかと思っていると、菅原さんから急に私に「ふられた。ほとんどめだか生なので言い苦しいなア、(笑)。「変な人の集まりで、あっけらかんとして楽天的でもう一人の自分をみつけ。」なんて話す。麻子さんには分かりずらかったらうなア。

8時からはU(アンダー)50の若手支局長のオンライン会議。「今日は参加者が少ないので引き続いて参加して」とのことと、10分ほど休憩して参加すること。第1回のU-50は6月27日、第2回は7月28日。第1回から草地博昭メダカが参加していた。今回も参加している。私の「めだかの学校」の説明が中途半端もいところから分らなかったたので、草地メダカが『建学の精神』を画面に見せて説明してくれた。今回のU-50では何人かの人の意見を聞かせてもらったが、テーマやホストの進行によって中味の濃淡が決まるような気がした。

こんな時だからこそ、インターネットを通してつながるのも良いかも。顔も見えて

。若いつていいなア。(ハラメダカ)

『人・ひと・ヒト』だより

●埼玉所沢市の木村智子メダカ。グリーンアドバイザー&1級造園施工管理士。なんや難しそうだが、清瀬市の「仮称」花のある公園づくりや各地の花壇づくりのお手伝いしている、だって。送っていただいた楽しい便りに「1年草の花は1年のうちの花期が短く、ほかの季節には花がなくなるので、いつもどこかで花が咲いているようにするようにするには、球根や宿根草を含む手間やお金がかからない多年草たちを上手に使いながら自然の趣きのある花壇、「ナチュラリストックガーデン」を目指している、と。実家のある浜松市にはなかなか帰れない、とも。めだかにも…

●磐田市の小野泰弘メダカ。毎年健康診断をやっていたが…今は抗ガン剤で自宅療養と通院で治療している、だって。抗ガン剤治療しているとあまり食べられず、妻が食事に気を配ってくれて体重も安定している。いまさらアタフタしても…前向き前向き、と。いや、明るい声で…

●森町の村松幸範メダカ。四国八十八ヶ寺別格二十ヶ寺巡りを終え、西国三十二ヶ寺巡りをしているが、なかなか進展がない。早く終え東国や秩父巡りをしたい。各地に巡礼があるが、遠州巡りもしたい、と。そんなこと考えるのはそんな年になったと言ふことですかね、だって。72歳、若い若い。今度めだかの学校でお寺巡りの話をしたいですね。

●浜松市の鈴木真弓メダカ。11月3日(火)15日(日)まで、『空間アート&八人展』を磐田駅前の「HBA静岡新美容専門学校」の校舎1F・2F、外壁、外階段、ショールームで行う。「かけがわ茶エン

ナーレ、遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」に参加作家に若手イラストレーターを加えての美術館やギャラリーとは異なる場所での展示会、知ってる作家さんがいるかも。月曜日、金曜日9時~17時、土・日・祝日は外部展示のみ可。また11月24日、29日まで、クリエイト浜松3Fの35号室の『HAMABEエンターテインメント展』にも参加。ぜひお出かけを、だって。問い合わせは、090・8865・6889鈴木真弓メダカへ。

●来年は選挙の多い年。衆議院議員選では、浜松市の城内実メダカと、磐田市では宮澤博行メダカと前職の小山展弘メダカが同じ選挙区で競合。4月の市長選と市議選では、磐田市の現市議芦川和美メダカ、秋山勝則メダカ、高田正人メダカは再選を、もう一人の市議の草地博昭メダカは「磐田を元気に！」と39歳で若さと政策で市長への意志を固めたようだ。袋井市では竹野昇メダカが現役市議をつづける意向のようだ。「めだかの仲間を応援してね！」

●遠州森町の遠州木三の里連代表の榊原淑友メダカ。10月16日に開かれた静岡県観光協会の本年度の観光功労表彰式で、「静岡県の観光振興に寄与した」として、団体の部(3団体)奨励賞で表彰された。おめでとー！

●浜松市の藤波公子メダカから「集まりのときお菓子でも」と、また3000円の寄付をいただきました。ありがとー。大事につかわせてもらいます。

●浜松市引佐町の牧野久子メダカからは、使用済切手をいただきました。この使用済切手はまとめて静岡県ボランティア協会(理事長小野田全宏メダカ)へ送っています。掛川市の鳥山剛メダカからもいただいています。この使用済切手は換金してタイの象のエサや植林事業などに活用されて

います。使用済切手は捨てないで、切手の周り5ミリづつ残して、事務局あて送ってください。開校時でもOKです。よろしく！

《新人生紹介》

●滋賀県栗東市の太田直子(よしこ)メダカ。山根圭二メダカから「めだかの便り」を送っていただき、校長訓話がめっちゃ面白かったのと、個性あふれるユニークな方ばかりで感動して入校した、だって。毎月100人のハガキ道友とハガキ文通交流してる。講演会やセミナー、倫理法人会のモーニングセミナーに参加していい話も聞くのが好きな、来年3月定年を迎える59才の会社員、と。いや、太田さんもユニークな人ですよ、ねえ。

《訃報》

●掛川市横須賀の鈴木武史メダカ。愛称武ちゃん、2年間余の闘病生活の末、薬石効なく、令和2年9月5日午後10時過ぎに永眠されました。享年62歳。武ちゃんは、平成21年12月4日の第66回の校長で、10周年、15周年、25周年100回記念大同窓会など節目節目などの会では、いつも司会進行をやってくれました。まさにめだかの学校のクッション役でした。まためだかの便りの製作にも快く引き受けてくれました。ありがとー！ありがとー！心よりご冥福をお祈りしています。

紙面の都合で今回はこれまで。
宿題特集号のくひとこと欄も見てね！

《めだか春秋》

武ちゃんありがとー
めだかの学校の古参生徒の一人、武ちゃん(鈴木武史さん)が62歳の誕生日を目前に亡くなられた。裸足に草履で毎回登校し、多くの人に声をかけ、愛用のデジカメで授業や給食の風景を自身のブログに上げてくれた。通常授業の先生はもちろん、記念開校などでは遠州弁そのままに司会も務めてくれるなど、めだかの学校になくてはならない、「おもしろ人」であった。

武ちゃんは、ほかに遠州横須賀倶楽部や横須賀のまちなみを考える会で遠州横須賀街道ちっちゃな文化展をはじめとするさまざまなまちづくり活動に全力で取り組んでいた。静岡県無形文化財第一号の指定を受けた三社祭礼囃子の指導や継承、遠州横須賀のみどころを案内する観光ガイドなどとしても、毎日忙しく横須賀のまちと周辺を飛び回っていた。根っからのお祭り男で、全国の祭り仲間との交流にも熱く、東京の神田、秋田の角館、愛知の半田、愛媛の西条などにも出かけていた。

横須賀の特産品として知られているよこすかしろの原料となるサトウキビ栽培も手掛けていて、そのお手伝いなどを二〇年ほど続けてきた私でも知らない活躍がたくさんあった。

「やると決めたことはどこまでもやる。気に入らないことは絶対やらない。」とよく言っていたが、付き合いの範囲は考えられないほど広く、多くの人に愛され、何でもやってくれた。人は何のために生きるかと聞かれても答えることは難しいが、武ちゃんの場合には、すぐさま「武ちゃんは、人のために生きた、故郷のために生きた」と言える。武ちゃんの登校しないめだかの学校は考えられないが、皆で、「冥福を祈りましょう。武ちゃん、長い間ありがとー。」

※お知らせ

めだか春秋はリレー形式で、第111回めだか春秋は、山田修平メダカ。



■来年のエトはウシさん

遠州森町の鈴木格子(けいこ)メダカ。10月10日付け静岡新聞朝刊の『ぐるっと沿線』天竜浜名湖鉄道遠江一宮駅で、小さな目のシロとクロのブチのかわいいウシさんと一緒に大きく写真入りで。来年の干支は丑。小国神社に奉納する鉄製の丑の置物。あれ？よく見るとあるものが…メスなの？オスなの？、どちらでもいいの、男女共存だからとバラメダカ。来年新年、小国神社でお会いしましょうね、と。

■事務局だより

いまだ収束しない新型コロナウイルスのなか、季節の移ろいは早いもので、多くのイベントが中止や延期、縮小と…。秋を彩る村の鎮守のお祭りのお囃子も式典のみに縮小されて聞こえず…。政府お呼びかけのGOTO GOTO、GOTOの声だけが大きく聞こえてくる。今年もあとひととき半ば…となりませすれば、ハイ。さて、28期、期初の第109回めだかの学校は9月4日。校長鈴木祐、教頭加藤ひとみ、用務員白尾恂。個性ある3人。どんな展開に。28期の通年テーマは『W I T H コロナ新時代 右手に知恵を！左手に夢を！』前を向いて歩こう。第109回テーマは『コロナ 前と後の生活のありようは…？』今回はコロナの関係もあり授業は3時限に。1時間目 総合「コロナと校長訓話と前校長と…」芦川知美先生。二時間目 国語「コロナとママと子どもたちと…」富田久美子先生。三時間目

目 社会「コロナとトラベルとミニバスケ

と…」間淵亮太先生。授業内容の頭にコロナをつけて、コロナについて考えようとしたが…それがなんと、7月24日に「浜松市の飲食店2店舗でクラスターが発生し、120人以上が感染…」の報道があり、磐田市や袋井市など周辺の市にも広がっているような状況から、石野省三メダカや榊原淑友メダカらと相談して『休校』を決める。「めだかの学校便り」は制作中だったので、急遽中味も変えて作り直すことに。第109回校長の鈴木祐メダカに『休校』の連絡すると、『あっ、原稿忘れてた!!』だって。「なアに」、明日の夜までに書いて至急間淵ちゃんに送って!!」と。

このような状況のとき、3月から入校した新入生から、「お話を聞いてワクワクして入校したが、休校やコロナで登校できず、気持ちも失せてしまったので退校させて欲しい」の手紙。『これではいかん』と『宿題』を決断！。ハガキ53円と、ハガキを同封すると封書が94円となって10円アップ。余分な経費がかかってくるが、このような時こそ必要だと、発行日がだいぶ遅れるが実行することにしました。

『宿題』のハガキ出してくれるかなア。締切りは第109回開校日の9月4日。…今日は何通、明日は…と郵便屋さんを待つ日がつづく。待ち人來たらずの時ほんとは淋しいものでございます。ハイ。

みなさんからのハガキを読むのは楽しいものです。そんな楽しみを共有しようとした。アナログ派の私、あれ、なんだこりや?! どうなってるの？、そんなつづきやきを繰り返しながら悪戦苦闘、5日間6回に分けて間淵メダカにメールを送信。いや〜まいった、まいった、でございましたが、皆さんの思いが詰まった特集号、お楽しみ

に!。

誰れです？それならもつと考えて書けば良かった、と言っつのは？。いまのものが一番いいものです。ハイ。

さて、第110回のめだかの学校は、12月5日土曜日午前11時〜午後3時まで、学舎で。その110回めだかの学校の校長、教頭、用務員の3役は、第109回が休校のため決まっておらず、事務局で独断と偏見で時間割ともども案をつくり、石野省三メダカと榊原淑友ら職員にFAXして検討。校長水島加寿代、教頭竹野昇、用務員白尾恂(第109回と同じ)に決める。3役が決まったことで、第110回職員会議を10月9日(金)19時から学舎で開く。

水島加寿代校長は夜は出られないので欠席。竹野教頭と白尾用務員の役員と職員13名で、日程・時間割、第110回のテーマ、授業内容などを話し合う。今回のテーマはGOTOを入れて『新時代、これからの生活はGOTOで、そう前を向いて…』に。授業については、第109回の先生にやってもらったら…のことから前回の内容をちょっと変えて、1時間目、総合「コロナと校長訓話にみえるGOTOって？」芦川和美先生、二時間目、国語「コロナとママと子どもたちと…」富田久美子先生。三時間目、社会「コロナとGOTOトラベルのオモテウラ…って？」間淵亮太先生。に決める。今回も給食は取り寄せにします。そんな訳で「出欠席」の返事は11月28日(土)必着で。入館時の玄関口での消毒・手洗い、マスクや3蜜は避けて、楽しい学校にしよう!となりまりました。(事務局 バラメダカ)

■第28期の受付をしています。

第28期は、令和2年9月1日から令和3年8月31日までです。毎年度手続きが必

要です。継続手続きがまだの生徒には再度申し込み書を同封します。フトコロ淋しき折から、至急提出をお願いします。12月5日の開校日でも受け付けます。未提出の生徒は今回を持って名簿からはずれ、自主退学扱いとなりますので、ご注意ください。新しく入校を希望される方がいましたら、事務局までご連絡ください。申込書と資料をおくりませ。

■ごめんなさい。今回は遅れてしまいました。

いつもお手伝いいただいています石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、田村進治メダカ、本島慎一郎メダカありがとうございます。バラメダカのメール挑戦は続きます。まとめてくださる間淵亮太メダカ、発送などのお手伝い榊原明美さんありがとうございます。

■めだかの学校だよりの原稿を!

次回の発行は、令和3年2月1日予定。締切1月15日です。みなさんの日頃の活動をお手紙かファックスで。待っています。メールの方は、
《mabuchi-trd@r.tnc.ne.jp》
間淵亮太090・5009・0986です。
(メールの方は割付の関係もあるので「報を」)

■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田5
29番地20 榊原幸雄方 TEL 05
39・62・6691 (FAX 同じ)
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話 0538・899・77
30 開校日の午後4時以降のみ使用可。
携帯 080・1612・91130

